Go West !

佐賀県立唐津西高等学校
学校だより　NO.3　R4.05.16
【建学の精神】朝（あした）に希望　夕べに感謝
文責　学校長　下村　昌弘
E-Mail　shimomura-masahiro@education.saga.jp

“赤”と“緑”の意味は　－双松祭体育の部　成功裡に終わる－

コロナの感染状況に鑑み延期していた体育祭。５月の連休、中間考査、高校総体までの間隙（かんげき）を縫った１４日、前日までの雨の影響を受けながらも無事開催することができました。

当日は早朝から準備を行い１時間遅れでスタート。しかし順調な進行で、カットした競技を２種目復活させることができ、西高生のしなやかな動きに感心しました。

赤団と緑団。この組み合わせは、初めて参加した私にはとても新鮮に見えました。普通２つのチームが競い合う場合は”紅白”。それなのになぜ本校は赤と緑なのか。

私の解釈はこうです。それは、、、動脈の赤と静脈の緑。つまり血の循環を表しているのです。赤と緑がグランドを駆け回れば駆け回るほど、舞えば舞うほど、血は巡り、熱い血潮が燃え滾（たぎ）る。この西高が燃え立つ、生き生きと輝くというわけです。

そして赤は生の象徴であり、緑は再生の象徴でもあります。つまりそこには生と死、再生を繰り返しながら時代を生き抜いていくしなやかさとたくましさが表されているのです。

そんなことを考えたのは、村上春樹の『ノルウェイの森』にあります。

『ノルウェイの森』が出版された当時、その赤と緑の装丁に話題が集まりました。ちなみに帯には「100%の恋愛小説」。主人公のトオルが親友キズキとその恋人ナオコを失い、徹底的な自己喪失からの再生を果たそうとする物語です。

『ノルウェイの森』赤と緑の表紙・装丁

当時私はまだ学生でした。１ページ１ページ丁寧に丁寧に読み進めていったのをよく覚えています。ハルキストとしては、ホントは一気に読みたいのだけど、もったいなくてもったいなかくてしかたがなかったのです。

いずれにしても、この体育祭は生徒会、各団のリーダーが西高生一人一人の個性を引き出し、全員で作り上げた見事な創造のドラマでした。赤と緑の物語を一人一人が受け止め、これからの学校生活の糧（かて）としてくれればと思います。

感激した。ありがとう。西高に来てよかった。次は第２部、文化の部に期待します。

ミカンの花が化粧品の原料に　―唐津の化粧品産業を考える－

連休後半の５月３日と４日、本校ボランティア部員は一般の参加者とともに化粧品の原料となるミカンの花の摘み取りを手伝いました。

この取組は奈良県に本社を置き、唐津市に工場を構えている化粧品メーカー（クレコス）が企画したもので、唐津市鏡にある温州ミカンの畑で白いミカンの花を摘み取りました。ミカンの花は

佐賀ニュース サガテレビ 2022 年 05 月 03 日

スキンケアの化粧品の原料として使われるそうです。
「さっぱりしたいい匂い。」「香りが良く、手につく香りに癒される」。
色と香りに魅了され、それが化粧品の生産につながり、しかもそれが地元で行われていることを知り、“唐津愛”が“増し増し”になったようです。

ボランティア考　その２

本校にはボランティア精神の血が脈々と受け継がれています。前号で書いたように、それは献身的・奉仕的な作業的な活動がそもそもの始まりでした。しかし、令和の今、本校のボランティアはその段階にとどまっていません。

みなさんは“アントレプレナーシップ”という言葉を知っていますか。それは「起業家精神」と言われるものです。イノベーションをもたらす新しい価値観を生み出す思考、行動力を意味します。
本校のボランティア活動は、他校に類を見ないこのアントレプレナーシップを鍛えるステージにあります。きっと皆さんの中には将来起業する人がたくさん出てくることでしょう。
献身的・奉仕的活動から開発的・起業家的活動へ。進化する西高での学びがこれからどこに向かうのかますます楽しみです。

私の哲学の道　－ひとり西の浜をひた走る－

いいジョギングコースを見つけました。唐津ヨットハーバー前の西の浜周辺です。時々時間を見つけて走ります。

海や島を横目にいろいろなことを考えながら走っていると、一人の時間っていいなあと感じます。机の前で考えても思い浮かばなかったアイデアが舞い降りてくることもあるし、何よりも唐津の海と浜辺の風景に猛烈に感動します。
こうした風景の中で自分と向き合えるなんて唐津に来てラッキーだったと心底感じます。
そういえば、プロ３年目の昨シーズン、初完投・初完封の飛躍を遂げたロッテの小島和哉投手が春先の自主トレ中、一人で 100M ダッシュを繰り返す姿に「きつい練習は単独ではなく相方がいたほうが頑張れるのでは」という記者の質問を受け、「僕自身はマウンドの上では一人なので隣にいる人に勝つということは重視していない。マウンドに立った時『これだけやってきたから大丈夫』と思えればいい」と答えていたことを思い出しました。
マウンドでは誰も助けてくれないという状況に自らを追い込み孤独の中で準備を進める、孤高の強さがあるような気がします。
結局最後はみんな一人。他人に勝った、負けたと相対の世界の中で一喜一憂していてもたかが知れたものということでしょう。
さて今度は中間考査。賢明なる西高生の皆さん。次なる試練に覚悟を決めてひとり寡黙に挑んでください。

【5 月後半の主な行事】
5 月 18 日（水）～20 日（金）
中間考査
26 日（木）高校総体壮行会
27 日（金）～29 日（日）
高校総体